

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 文学研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 (研究科) |
| 中項目 | 6.3 教育方法 |
| 小項目 | 6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 |
| 要素 | 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院) |
| 小項目 | 6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 |
| 要素 | シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性 |
| 小項目 | 6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 |
| 要素 | 厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性 |
| 小項目 | 6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 |
| 要素 | 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施 |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--|--|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進める。 | →従来の大学院における教育方法に加えて、高度専門職志望者に対応した教育方法の試行・検討・普及の進捗状況。 | C | C | C | C | |
| 2. 後期課程(一部前期課程を含む)における外国語による研究発表支援のための教育方法上の工夫、体制の構築を行う。 | →外国語による研究発表を想定した教育方法やスタッフ確保などの支援制度開発の進捗状況。 | A | B | B | B | |
| 3. 大学院教育にふさわしいシラバスのあり方を検討し、改善を進める。 | →大学院教育の目標にみあったシラバスのあり方の試行・検討・普及の進捗状況。 | C | C | C | C | |
| 4. 修士論文・博士論文執筆にむけた見通しを持ちうる履修・研究計画作成のための支援策を開発する。 | →大学院生が論文執筆までの見通しをもった研究計画を策定し、各年度の実施状況の自己点検・自己評価をなすような年次計画書・報告書開発の進捗状況。 | B | B | B | B | |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|-------------------|-----------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 領域間における専修免許希望者・高度専門職志望者の割合の大きな相違により、それぞれに応じた教育方法の開発が求められているため、各領域ごとに在学生の進路志望と修了者の進路状況の調査を行いその分析を進めている。また、高度専門職志望者の割合が高い教育心理学・学校教育学分野では、臨床発達心理士資格のための科目が新たに設けられ、高度専門職志望者向けの新たな教育方法の試行を行っている。 |
| 目標2 | 英米文学英語学領域・フランス文学フランス語学領域・ドイツ文学ドイツ語学領域には各言語のネイティブの専任教員がおり、「英語学調査研究法」などの科目によって外国語によるプレゼンテーションスキル向上のための指導を行っている。また、総合心理学領域においても、数年来継続して行っている海外発表支援の様々な取り組み（スキル向上のためのセミナーや補助金・助成金獲得支援等）が成果を上げてきている。 |
| 目標3 | 関西学院大学文学部ホームページで作成・公開している。大学院生を対象にした独自の授業評価アンケートを学期ごとに実施し、その結果を研究科委員会で検討している。現状では、シラバスに関する学生の満足度は悪くない。本研究科では各領域ごとの特性が大きく異なるため、それをふまえたシラバスのあり方を検討する必要性があり、更には、講義系科目・演習系科目・スキル向上のための科目等の記載要件を見直す必要性もあること等の点から、統一フォーマットの成案には至っていない。 |
| 目標4 | 前期課程入試時や後期課程進学時に研究計画書や博士論文計画書の提出を義務づけ、その内容を精査した後に「研究演習」「特別研究」「博士論文作成演習」等で学生に応じた指導を行っている。また、後期課程研究奨励金や大学院奨励研究員、日本学術振興会特別研究員等の競争的資金に積極的に応募させることによって、教員の指導を受けつつ、学生自らが論文執筆に向けての研究計画を自覚できるようにしている。 |
| 備考 | |